

平成 27 年度 星槎大学 入学式 学長告辞

本日ここに、関係者の皆様方の御臨席のもとに、めでたく平成 27 年度星槎大学入学式を挙げるにあたり、新入生の皆さん並びに御家族、御関係者の皆様方に対し、心からお慶びを申し上げます。また、公私ともに大変ご多用の中、各式場にご臨席を賜りましたご来賓の皆様方、誠にありがとうございます。

本日星槎大学がお迎えする新入生は、共生科学部 1148 名、大学院修士課程 41 名、計 1189 名でございます。星槎大学らしく、ここ箱根式場を始めとして芦別式場、大阪式場、福岡式場そして大学院の入学式場である星槎湘南大磯キャンパスをテレビ会議システムにて接続して行います。

さて、新入生の皆様、星槎へようこそ、共に学んで参りましょう。

現在、私たちを取り巻く世界の情勢は混迷を極めていると言っても過言ではありません。1991 年のソヴィエト連邦の崩壊後、早や四半世紀が経とうとしています。勝利者かつ唯一の超大国となったはずのアメリカ合衆国の存在感が後退し、アジアが世界の GDP の 4 分の 1 を占め、中国とインドの台頭を軸とするアジアダイナミズムは大きな存在感を持ってきています。この GDP の割合は 2040 年には 5 割を超すと言われていています。

また世界各地で宗教やイデオロギーに起因する悲しいニュースが飛び交っているように、国境や地域、あるいは従来のパラダイム軸では切り取り得ない、いわば従来型の価値観の液状化とも言える複雑な様相を呈しています。

これからの時代を一言で論じることはできませんが、ある意味、覇権なき世界の中で、国境を超えたネットワークが存在感を増し、そのもとで世界各地域が激しい自己主張と上昇志向を持つようになってきている今、共生型世界秩序のあり方が模索されています。

毎年 1 億人ずつ増加し続ける世界人口と、経済の発展に伴う人口構造の都市化は、食糧とエネルギーの問題を、それこそ全員参加型の喫緊の課題として、私たちに突きつけています。特に 2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災は東京電力福島第一原子力発電所の事故を伴い、今も数多くの方の帰る家を奪ったままであり、同時にエネルギー戦略の再構築を世界に対して問うものとなりました。

このような状況において、私たちはどこを目指していったらよいのでしょうか。

その問いに答えることは容易ではありません。しかし、少しずつでも私たちにできることから社会を変えていくことはできるのではないのでしょうか。

大学とは何か。何を大学で追求すべきであるか。世界中の大学がそれに対してそれぞれの考えを実践していこうとしています。

似て非なる言葉に、知能、知識、知性があります。様々な議論があるでしょうが、知能と知性について述べるのであれば、知能とは答えのある問いに対して、正確な答えを早く出す能力と定義でき、知性は答えのない問いに対して、粘り強く問い続ける能力と定義することができるのではないのでしょうか。一方、知識と知性を述べるのであれば、知識は言葉で表せるものであり、書物などから学ぶことができるものです。他方、知性は、本質的には智恵であり、言葉では表せない暗黙知として、経験を通じてしか掴めないものです。

今、私たちに求められているのは知性を持った変革者です。

一つの専門分野を一筋に追求していくことも非常に大切なことです。しかし実際の社会は様々な領域が溶け合って成り立っている以上、全体を包括的に見ていく視座もまた何にも増して重要であり、言葉とすれば陳腐かもしれませんが、この社会を今より少しでも良いものとするためには、専門分野を横断的に俯瞰でき、社会に染み入った目の前の課題を抽出し、それに取り組んで変革していく力、すなわちインテグリティを持った人間、知性を持った変革者が非常に重要な役割を担っていくと確信するからです。

だからこそ、唯一本学が他大学に先駆けて学部として提唱した共生の理念が重要さをますます増しているということが出来ます。

星槎創設者、宮澤保夫先生の理念を大学レベルで実現するために星槎大学は開学をいたしました。

星槎大学共生科学部は多様な科目を一学部一学科の中に配置しています。従来型の大学では、縦割りに区分されている科目群を、本学科では一つの学科の中で横断的に学べるようになっていきます。つまり自らの学びは自らの意思でデザインできるのです。一年目は教育に興味があったが、翌年は環境問題に興味の対象が広がった、という場合も十分に学ぶ意欲に対応ができます。あるいは最初から自分でテーマを設定し、国際関係と福祉を統合的に学んでいきたいというニーズにも応えられるようにしています。専門の軸を教育に置きながら、福祉と環境と国際関係をトッピングすることもできます。

また、教員免許の取得を当初の目的としていたが、こどもたちに伝えていくべきこととして、環境関連の知識やテロ、国際紛争などの知識を学びたいという本質的なニーズにも応えられるようにしています。

星槎大学大学院教育学研究科はその共生科学の礎のうえに特に教育に重点をおいて、より深く研究をいたします。今年度はさらに看護教育研究コースを設定しました。看護師は全国的に不足し、これは私たちの命に直結する深刻な問題です。その看護師を養成する教員が、さらに輪をかけて不足している状況に鑑み、看護師を養成する大学等での教員を目指す「看護教育研究コース」を設定いたしました。

星槎大学の大きな特色に社会人学生の数の多さがあります。25歳以上の学生数比率はOECD平均で20.6%、一方日本の大学の平均は2.7%と報告されています。現時点で日本における生涯学習の学び舎と学生の数は、政府が提唱する生涯学習社会を目指すという方針に反し、学びの場を用意できていないという現状があります。一方星槎大学の本年度入学生の平均年齢は学部で33.8歳、大学院で46.1歳です。最高年齢は学部が69歳、大学院が79歳です。社会人学生の比率は8割を超え、その職業に目を向けるのであれば、3分の1強が現職の学校教員です。また、47都道府県すべてから入学いただいております、海外に在住している方もいらっしゃいます。

共生科学部、大学院ともに目指すは社会における実践です。実践科学としての共生科学でありますから、社会に直結する皆様の活躍に大きく期待するところです。

星槎大学には在籍期限がありません。特に共生科学部はご自身の計画に合わせて毎年の学ぶ単位数を自由に選択することができるようにしてあります。一学生び続けることも可能です。このような学校があってもいいだろうという星槎の創設者、宮澤保夫先生の理念に基づいています。

大学院はその研究をなすという性質上、集中的に学ぶシステムとしてあります。とはいえ、在籍期限がないことは共生科学部と同様です。

ぜひ、本学での学びを皆様の日常的なご活躍の中で実践して行っていただきたい。小さな活動でもそれが集まれば大きなうねりになるはずで。

宇宙の始まりはビッグバンであるという説が現時点での定説です。それに関連しては、物質の究極的要素は「粒子」ではなく「ひも」であるという超ひも理論が重要です。そのひもはバイオリンの弦のようなものであり、その振動によって、物質や重力、そして時間空間も生み出されたとする理論です。その超ひもが宇宙の根源物質であることから、物は粒子の性質だけでなく波の性質ももつとされます。これを拡大的に解釈していくと、超微小な素粒子の世界から地球や生物や人間、そして組織や社会に至る迄すべての現象は波動としての性質をもつと見ることができます。

例えば、歴史は繰り返すと言われます。トインビーの800年周期の文明衰亡循環説などに見られる、その繰り返されるパターンは確かに大きな波というかうねりということができるようになります。さらに短期で比較的イメージがしやすい景気や経済、あるいはプロダクトライフサイクルなども波と見て取ることができます。さらに、易や四柱推命などの人間のバイオリズムも波に表現されます。そして宇宙や銀河、星の生誕サイクルも確かに波の様相を呈しています。

あらゆるものにリズムがあり、あらゆるものにサイクルがある。ある実験の様子をビデオで拝見したことがあります。周期の違うメトロノームを100台用意して、振り子状の台に乗せてしばらく放置をする。すると、当初全てが違うリズムを刻んでいたはずなのに、徐々に同じリズムを刻み始める。また近い距離にいる蛍は最初はそれぞれバラバラに光り出しますが、徐々に同時に発光するようになる。つり橋を歩いている人々が同じ歩調に揃ってしまう。これらは引き込み現象といわれます。あらゆるものはその固有のリズムやサイクルを一つの大きなうねりに統合しようとする傾向を持つということの現れの一つであると思えてなりません。

星槎には園児から中学高校大学生に至るまで、星槎の3つの約束というものがあります。人を認める、人を排除しない、仲間を作るというものですが、小さな関わりを大きな輪につないでいくということですから、これさえも波と捉えることができるのかもしれませんが。

確かに波動はその性質として、連続的に伝播し、共鳴し、大きな波を形成していきます。

私たちが星槎大学で学び、それをそれぞれの立場で実践していく。この小さな波は必ずや大きなうねりとなるはずです。そしてお互いを認め、違いを乗り越えて補い合う共生社会に向けた活動に昇華されていくはずです。

星槎大学は皆様に、私たち自らが社会の形成者であり、社会を変えていく存在であるということ念頭に毎日の学習を進めていただきたいと思います。

皆様個々人が学ばれる内容は一見別のもかもしれませんが。現代を生きる我々にとってはその各分野を共生という軸において、横断的に連関をさせていくことが重要です。そして、そこにこそ星槎大学での学びの醍醐味があります。そして、できることからでよいので、学ばれた事柄を社会の中で表現し、実践をしていただきたい。それが大きなうねりになっていくはずだからです。共生科学は実践科学です。日常の中に溶け込んでいってこそその学問であると確信しています。

新入生の皆様には星槎大学を味わい尽くしていただきたい。星槎の教職員の熱意はどこにも負けません。私たち一同、自律的に学ぼうとする皆様の学修を心から誠心誠意応援させていただきます。その中で私たちも皆様から学ばせていただきたいと思えます。そして社会に必要とされる、共生社会の創造に資する人間として星槎でつながり、共にこの星の槎（いかだ）に乗って進んでまいりましょう。

最後にもう一度、本日はご入学、本当におめでとうございませす。そして、星槎へようこそ。

平成 27 年 4 月 18 日

星槎大学 学長 井上 一